



ろうさい連携だより

2012.1
第 10 号

病院の理念

満足と納得が得られる医療の実践

基本方針

- 1 患者さんの安全と安心を第一に考える医療を提供します
- 2 患者さんの権利を尊重し、思いやりのある医療を実践します
- 3 科学的根拠に基づく質の高い医療を提供します
- 4 地域の方々と勤労者の健康管理を支援します



冬の静かな夜（撮影：中央放射線部 晴山良紀）

目次

- p1 年頭のあいさつ ● 病院長
- p2 診療の現場から ● 乳腺外科
- p4 人事異動
- p4 Topics ● 市民講座
- p4 今月の投稿
- p5 お知らせ
- p5 地域連携室から

年頭のあいさつ



病院長 三浦 幸雄

先生方におかれましてはご健勝で佳いお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。年頭にあたり、先生方のご多幸と益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

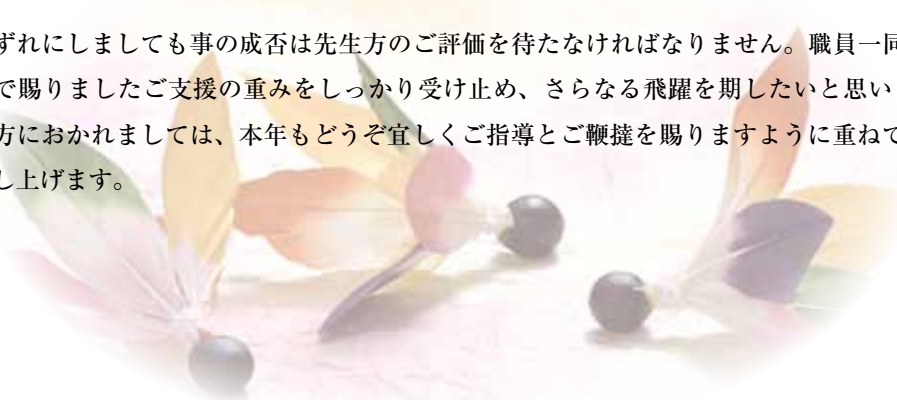
当院も先ずは無事に新しい年を迎えることができました。これも先生方から賜りました多大なご支援のお蔭でございまして、心から感謝申し上げます。

昨年は、千年に一度ともいわれる未曾有の大震災に当地方が見舞われました。沿岸部は想像を絶する巨大津波に襲われ多くの人命が失われ、広範な地域が廃墟と化したばかりではなく、世界中を震撼させる原発の重大事故まで誘発されました。地域の復旧・復興に国を挙げて努力されていますが、受けた損害は余りにも甚大で、明るい兆しは依然として見えない現状です。

当院は幸いにして、被災の程度は比較的軽度にとどまり、震災以来通常の診療を維持することができました。特に、全職員が一丸となって病院を守るという姿勢に徹して急場を凌ぐことができましたことは渦中であって大変心強く思われました。最大の被害は手術部への漏水でしたが、その原因となった機械室の改修工事や管理棟壁面の補修工事などが3月まで続く予定です。このような災害はめったにないこととは思われますが、地域の中核病院として、特に災害拠点病院でもある当院は災害時の対応について反省すべき点も少なくなく、今回の経験を踏まえて今後に備えなければならないと考えております。

さて、本年は震災からの影響は残るにしても、さらに病院機能を充実させて先生方のご期待に沿うことができますように努力して参りたいと思います。特に、急性期医療の充実が当面の課題ですが、幸い医師も優れた人材が集まり、人数も110名を超えるようになりました。施設面では新たにHCU（high care unit、8床）を来年度内に開設する予定です。また、登録医の先生方との窓口になっております地域医療連携室も担当者を増員して機能をさらに充実させ、併せて救急患者の受入にも万全を期するように体制を整備して参りたいと考えております。

いずれにしても事の成否は先生方のご評価を待たなければなりません。職員一同、これまで賜りましたご支援の重みをしっかり受け止め、さらなる飛躍を期したいと思います。先生方におかれましては、本年もどうぞ宜しくご指導とご鞭撻を賜りますように重ねてお願い申し上げます。



乳腺外科

東北労災病院 乳腺外科部長 豊島 隆

乳がんや乳腺の良性疾患の治療は以前から外科において行われてきましたが、患者さんの増加や、その診断や治療で特殊性や専門性が要求されるようになったことなどを背景に次第に乳腺外科(あるいは乳腺科)として独立した診療科を標榜する病院が増えてきました。当院でも2004年春から外科の一部門として乳腺外科を標榜し、また乳腺疾患の紹介患者さんを専門に診察する“乳腺外来”も新設、次第にその枠を拡大してまいりました。

乳腺外科では乳房に発生する様々な疾患の治療を行っておりますがその中でも乳がんに対する診断、治療がその中心となります。またこれらの内容も年々変化しており、ここでは最近当院に導入された医療機器や乳がん治療の現状をお伝えいたします。

I. デジタルマンモグラフィ

いろいろな画像診断の進歩はありますが、乳がん診断の基本はマンモグラフィにあります。これも世界的な流れとしてアナログからデジタルへと大きく変化してきました。当院でも2011年からそれまでフィルムに撮影していたアナログ撮影から、フィルムを使わず高精度のモニターで画像を表示するデジタル撮影の機器に更新いたしました。現像にかかる時間が必要ありませんので撮影にかかる時間が大幅に短縮されたこと、フィルムとして保管するスペースも不要になり、前回、前々回との比較などもモニター上で簡単にできますので、非常に効率的になりました。

II. 手術

日本において乳がんは女性のがんの罹患率で1990年代半ばに胃がんを抜いて1位になりその後も増え続けています。当院での手術件数でも右肩上がりの増加を示しており、ここ数年は100件を超える手術件数となっています。(図1)

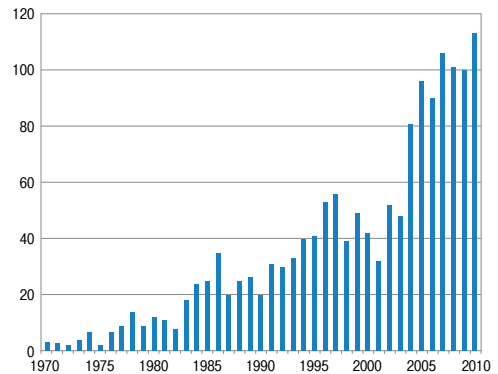


図1

乳がんの手術はこれまで他のがんと同様、がん組織を残さずに大きく切除するというのが基本でした。しかし、必要以上に多くの組織を切除しても治療成績は向上しないことがわかってきて近年は根治性を保ったまま、切除範囲をできるだけ小さくすることが手術の基本的考え方となっています。手術は乳房をすべて切除する“乳房切除術”と乳房の一部を切除する“乳房温存手術”に大別されますが、当院の症例についても確実に乳房温存手術が増えてきて全体の70%程度を占めるようになっていきます。(図2)

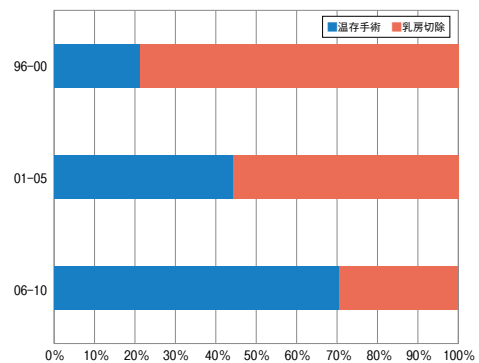


図2

III. センチネルリンパ節生検

乳がんの治療では腋窩リンパ節転移の有無は予後の予測に非常に重要な意味を持っていますが、従来はリンパ節を切除してみないと転移の有無はわかりませんでしたので、すべての方、つまりリンパ節転移の可能性の低い人まで含めてリンパ節を切除する必要性がありました。最近では乳房から腋窩に向かうリンパ路の中で最初に到達するリンパ節をほぼ正確に特定するこ

とができるようになりました。これを“センチネルリンパ節”と呼び、このリンパ節のみを切除しそこに転移のないことが確認できればそれより遠いところのリンパ節は切除する必要はありません。これには放射性同位元素(RI)を使う方法と、色素を使う方法、およびこれらの併用がありますが、2010年春にこの手技が正式に保険適応となったのを機に当院ではRIと色素の併用法でのセンチネルリンパ節生検を行っております。リンパ節の同定率はほぼ99%で、また患者さんの80%近くは結果的にリンパ節転移がありませんのでリンパ節を大きく切除しない手術は患者さんにとっても術後のむくみや挙上制限の減少に大きなメリットとなっています。(図3)

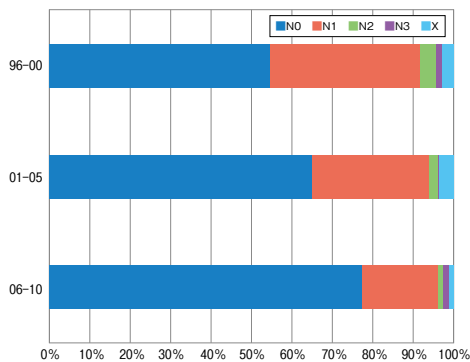


図3

IV. いろいろな診療科での治療

乳がんの治療は手術単独で完結することは少なく、いろいろな治療を組み合わせで行うことも必要になってきます。

手術においてはセンチネルリンパ節生検でリンパ節転移の有無の判定や温存手術の切除断端の判定に病理医による術中迅速診断がかかせません。

手術後に化学療法をお受けいただく方も多いのですが、これまでは専門医がいなかったため手術後に外科医がそのまま化学療法を行ってきました。現在はその化学療法の専門医＝腫瘍内科医のもとで治療を行っております。化学療法に入院が必要な患者さんもおられますが、2004年に外来で化学療法を行う“化学療法センター”を開設し大多数の患者さんは入院せずに化学療法を受けていただいております。

また診断時にがんの大きさが3cmを超えていたりリンパ節転移が認められる方に対してはこれまで手術後に行っていた化学療法を手術前に行ってから手術を行う方法(術前化学療法)にも積極的に取り組んでいます。これによって癌が縮小し切除範囲を小さくできたり、乳房温存手術が可能になるというメリットがあります。

化学療法の際には口内炎を初めとする口腔内の合併症(口の中や歯のトラブル)が高頻度に起こりますが、これまでは治療のほうが大事との考え方からこの副作用は見過ごされてきました。当院ではこれから治療を受ける方や治療中の方に積極的に歯科医師や歯科衛生士の診察を受けていただくことで口腔内合併症を減らす取り組みを行っています。

乳房温存手術後の患者さんは温存手術後の残存乳房内に局所再発することがありこの可能性を完全に消すために乳房への放射線治療が必要です。また、再発乳がんに対してもリンパ節転移や骨転移に対しては放射線治療が重要な選択肢となりますが、現在は放射線治療医が常勤で勤務しておりますのでより高度な医療を提供することができるようになりました。

V. 手術後の長期フォロー

乳がんの治療成績は飛躍的に向上しておりますが、また一方では5年を経過してから再発する症例もあり、少なくとも5年、リスクの高い方は10年くらいをフォローしなければなりません。患者さんが増える中でわが国のがん対策基本法では5大がん(肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん)について病院と患者さんのお近くの連携医とで一緒に患者さんをフォローする地域連携クリティカルパスを整備することが求められています。この度、県内で各医療機関共通で使用するパスの運用が開始され、乳がんについてもこのパスに沿った長期のフォローが始まっています。このパスにつきましては病院職員が先生方のもとを訪問し直接ご説明する体制をとっておりますので、今後ともご協力くださいますようお願い申し上げます。

乳腺外科のさまざまな取り組みをご紹介いたしました。現在は乳腺外来を週2回(火曜午後、金曜午後)診療しておりますが、このほかの通常診療日でも対応は可能ですので、地域医療連携室までお問い合わせくださいようお願いいたします。



柴原みい医師 会津安希子看護師 豊島隆医師

人事異動について

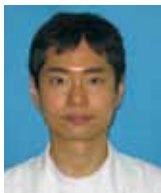
転入

平成23年10月1日付



大腸肛門外科医師
生澤 史江

一生懸命頑張りたいと思います。ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



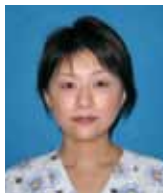
耳鼻咽喉科医師
織田 潔

はじめまして。平成23年10月から耳鼻咽喉科に着任いたしました織田潔と申します。宜しくお願い申し上げます。

平成24年1月1日付

糖尿病代謝内科医師
池端 史子

糖尿病代謝内科で勉強中です。よろしくお願いします。



麻酔科医師
中田 陽子

よろしくお願いいたします。



麻酔科医師
小林 直也

まだまだ至らぬ点が多々ありますが、よろしくお願い致します。

転出

平成23年9月30日付

耳鼻咽喉科医師 牧 敦子

麻酔科医師 大西 詠子

麻酔科医師 佐藤千穂子

平成23年12月31日付

脊椎外科部長 松本不二夫

放射線診断科副部長 田村 亮

Topics

第7回市民講座報告

平成23年10月29日(土)開催

第7回の市民講座「腰痛のはなし」を開催しました。およそ130名の方に参加して頂き大変好評でした。

前半は、松本脊椎外科部長による理論編で、腰痛発生のメカニズムが分かりやすく語られました。その後、他の疾患との関連が考えられる腰痛や、手術例となる場合の腰痛等を治療法を交えながらの説明がありました。

後半は、和田リハビリテーション科技師長による実践編で、腰痛体操の講義と実演が行われました。座席は早い時間から埋まり、腰痛に悩む方が多いことを目の当たりにしました。

今号の投稿

ヒマジン

落胆と悲しみの声。こんなにも世界中から悔やまれる経営者も珍しい。スティーブ・ジョブズ曰く「たまたまなく好きなものを見つけないといけない」、「ハングリーであり続けろ。愚かであり続けろ」、「ビートルズが目標だった」。作り出す製品は圧倒的にクールだった。それにしても若くして偉大な人に早世が多いのは何故？エルヴィス、ジェームスディーン、マイケルジャクソン、美空ひばり、そしてジョンレノン等々。知己の中にも途轍もなく凄いのが2名いた。ともに世界一目前で40代、50代でそれぞれなくなった。ともに学生時代から際だった活躍をして、スーパーマンでハートが素晴らしく後輩を心酔させた。3.11でも多くの早世があった。周囲は無念であろうが、方々が人々に残したものはきっと大きいはずである。

暇人より

お知らせ

東北労災病院 第8回市民講座

日時 平成24年2月25日(土) 13:00～14:30

場所 東北労災病院 1階ロビー

講師 循環器科部長 小丸 達也 「心筋梗塞から身を守る」胸が痛いと思ったら・・・
リハビリ科技師長 和田 昌一 「健康づくりのための運動」

地域医療連携室から

◆連携満足度調査を行いました

今年度の連携満足度調査を平成23年11月に行いました。ご協力くださいました医療機関の先生方から感謝申し上げます。アンケートの結果、および頂いたご意見は、改めてご報告いたします。

◆月別紹介患者数

	紹介患者数(人)	逆紹介患者数(人)
平成23年 8月	1,075	668
平成23年 9月	1,091	629
平成23年10月	1,099	698

◆地域医療連携室看護師あいさつ 高橋 久子

はじめまして、連携室の新人です。

昨年10月1日より地域医療連携室に配属になりました、看護師の高橋久子です。労災病院にお世話になり早30年、病棟→外来→病棟→在宅→外来と変遷し、この度、未知の世界に入ってきました。今までは地域連携室を利用する側で無理なお願いも多々してきました。中に入ってみて、事務の方々の仕事の種類、量に驚くと共に地域の医療機関、特に登録医の先生方との連携の重要性を改めて感じています。

私の地域医療連携室での役割は

- I 「円滑な地域連携を図る」として紹介患者の円滑な受診の他、入院手続き・病棟案内、また院外施設(医療及び福祉)との橋渡しとして、患者状況等の問い合わせの窓口になること。
- II 「患者の在宅生活の支援」として退院支援に携わり、退院調整を担っていく予定です。

不慣れなためご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、皆様のお力をお借りし頑張っていきますのでどうぞよろしくお願いいたします。



独立行政法人 労働者健康福祉機構 **東北労災病院**

〒981-8563 仙台市青葉区台原4-3-21

TEL.022-275-1111(代表) FAX.022-275-4431

ホームページ <http://www.tohokuh.rofuku.go.jp>

地域医療連携室

TEL.022-275-1467(直通) FAX.0120-772-061